

## 日本語版への序文

少なくとも過去四半世紀にわたって、日本人は、計算機とその利用に深い関心を示してきた。彼らの初期の成果としては、電気試験所の Mark III, IV などの計算機、パラメトロンの発明のほか、日本の各大学や産業界の研究所で行なわれたすぐれた開発をあげることができる。こうした草分けの時代から、電子計算機は、日本の経済と日本の教育体系の中で重要な地位を占めてきたのである。

したがって、現代の科学技術の世界にこれほど大きな寄与をし、また、計算機の分野でこれほど重要な進歩をなしとげた国の人々に、この古い時代からの計算機に関する歴史的な解説が読まれるようになることは、私の非常な喜びとするところである。私たちが、私たちのすべてに影響を与えてきた“コンピュータ革命”的背景を知ることは、重要である。私たちの生活様式や、ものの考え方まで生じたこの変化の深さに、だれもが気づいていいるわけではないし、また、私たちの経済の発展が、基本的に、人々をより有能に、より幸福に、そしてより生産的にするような、幅広い計算機の利用に依存していることを、だれもが認識しているわけではないからである。

私たちは、計算機の利用に伴って生じる深刻な変化を、今日、ようやく知りはじめたばかりだといわれている。事実、携帯用の電子卓上計算機や大学の計算機を通じて、子供たちですら利用することができるようになった大量の数学的な補助手段と知識は、科学的にも文化的にも、彼らを、私たちよりもはるかに高い知識と教養を身につけた、そして希望的な見方をすれば、はるかに有能な人間にしているのである。

私は、末包教授、ならびに米口、犬伏の両氏によるこの日本語への翻訳を読むことはできないが、読者には、必ずやその翻訳の質の高さを正当に評価していただけるものと期待している。いずれにしても私は、私のためにたいへんな努力をして下さった訳者の方々に、厚く感謝の意を表するものである。私はまた、本訳書を制作するに際して払われたあ

ii　　日本語版への序文

らゆる努力に対して、発行所の共立出版（株）にも心からお礼を申し述べたいと思う。

ハーマン H. ゴールドスタイン